

カキは古来から食品として多く利用されてきた双殻類の動物であり、グリコゲン、タウリン、亜鉛を多く含んでいる。このカキ抽出物がアロキサニ糖尿における高い血小小板凝集能を低下し、GTT(耐糖能)に対して(変化と)はみかすことより、その作用を Met(メチオニン)→Cys(システイニン)→タウリンの代謝と、それに関連するV₁₃B₆依存性との関係について検討を加えたのでここに報告する。

(方法) アロキサニ糖尿白鼠に対するカキの作用と、MetからV₁₃B₆依存性酵素の作用によって生成されるタウリン、ならびにMetそのものの継続投与の影響と、TrpからのX₁A(キサンソレニ酸)排泄の面から実験を行なった。

(結果および考察)

- 1) アロキサニ糖尿白鼠にカキ抽出物を与えるとGTTは回復してくる。
 - 2) アロキサニ糖尿白鼠で高値に存した血小小板凝集能はカキ抽出物投与で低下する。
 - 3) V₁₃B₆欠乏Trp投与白鼠でX₁Aの排泄の増加や、その肺に変化がみとめられるが、
 - ① タウリンの母体であり、そのMetからの生成に多量のV₁₃B₆を必要とするMetの継続投与白鼠にTrpを投与すると多量のX₁A排泄がみとめられる。
 - ② カキ抽出物に示された量に相当するタウリンの継続投与では、X₁A排泄は対照群と大差はみとめられない。
 - ③ カキ継続投与群はコントロールよりX₁A排泄は少く、亜鉛の影響が考えられる。
- (文献) 木田 大文 柴田; 第14回愛知医科大学医学総会, 5.61, 12, 13, 長久手.